

POINT 1

組織評価について

数の最も多い小規模な団体でアカウンタビリティへの意識、体制が弱い

ACTION PLAN

- 特に規模の小さい団体に対して、内輪のニーズや満足にとどまらず、広く社会的な理解・信頼を得る必要性についての認識を高めるよう働きかける。
- 特に規模の小さい団体に対して、組織力強化の支援を行う。

POINT 2

事業評価について

PDMのような目標達成度評価はNGO評価に不十分な場合が多いので、新たな枠組みを形成する必要がある

ACTION PLAN

- 単なる主觀ではない、体系立てた参加型評価手法、例えば Most Significant Change (MSC) 手法を導入する。
- 評価に馴染みのないNGOスタッフには、評価の基本概念・理念と実践を含む研修を提供する。

POINT 3

ステークホルダー全体として

NGO、市民社会、ドナー等の間で、共通の『価値観』を持つよう、ギャップの解消に努める

ACTION PLAN

- 全ステークホルダーが集まって学び合い、相互の認識のずれ、ギャップを解消する場、例えば共学ラウンドテーブルを設置する。

NGO の評価力

- NGO 団体の組織及び事業をどのように評価するべきか -

発行
外務省
国際協力局 民間援助連携室
〒100-8919
東京都千代田区霞ヶ関 2-2-1

TEL : 03-5501-8361
FAX : 03-5501-8360
<http://www.mofa.go.jp>



実施（運営事務局）
公益社団法人
青年海外協力協会 (JOCA)
〒102-0082
東京都千代田区一番町 23 番 3
日本生命一番町ビル 5 階
TEL : 03-6261-0243
FAX : 03-6261-0249
<http://www.joca.or.jp>

本パンフレットは、同タイトルの報告書抜粋版です。詳細については、報告書をご参照ください

NGO の評価力

NGO 団体の組織及び事業をどのように評価するべきか



外務省主催平成 27 年度 NGO 研究会

NGO の評価力 -NGO 団体の組織及び事業をどのように評価するべきか-

◎ 背 景

我が国の国際協力 NGO は、多くが小規模な団体ながらもそれぞれ独自の理念に基づいて設立され、開発途上地域を中心とした世界の様々な開発課題の解決と持続的成長に貢献するために献身的な活動をしています。但し、現場主義を重視する一方で、管理部門に弱点を抱える団体も少なくありません。このため NGO には、支援者や裨益者、更には市民社会に対する説明責任を果たすため、そして事業の改善に役立てるために『評価』が求められるようになっています。

◎ 目 的

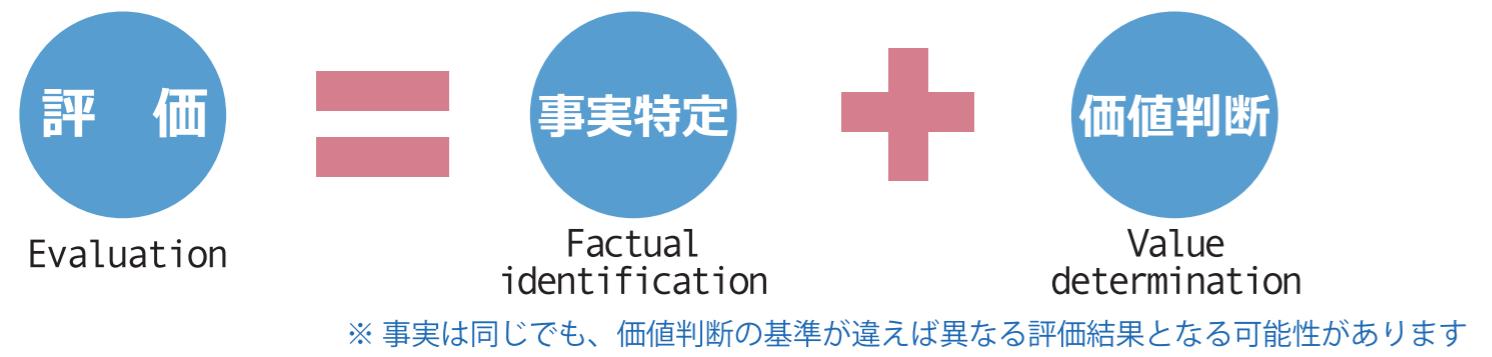
NGO 評価は、支援機関からの求めで実施されることが多いものの、NGO の側は実際の活動と評価の間に認識のズレを感じることが多いようです。ここでは、NGO の視点に立って NGO 評価のあり方をとらえ直し、『評価』を有効活用するための方向性を探り、提言することを目的としています。

◎ 方 法

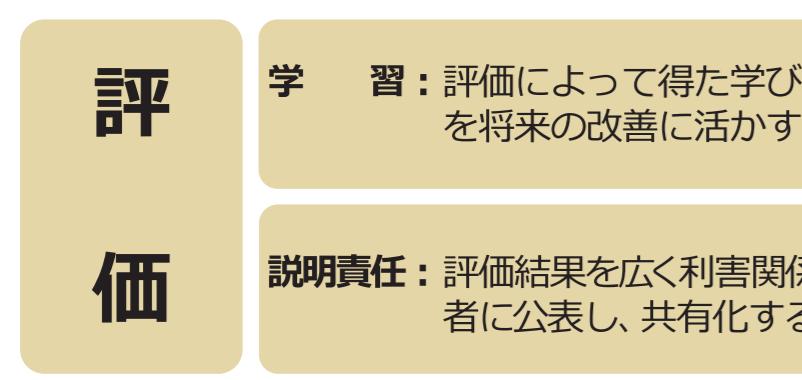
団体個別訪問による聞き取り調査、Web アンケート、グループディスカッション、そしてシンポジウムと、全国各地、多くの NGO 団体や有識者の方々にご協力いただきました。

◎ 基本理解

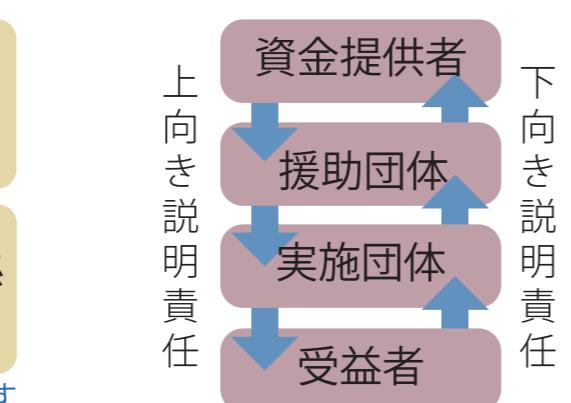
評価の定義



評価の目的



NGO の 2 つの説明責任



※ 上向き説明責任が強調される傾向にありますが、受益者を主体とする下向き説明責任には学習効果があることから、重要度が増しています

◎ 主な結果

① 評価に関する NGO の主要な認識

評価全般

- 「評価」に対する理解が人や団体によって様々
- 実務をとおしてだけでは一面的な理解につながりがちだが、研修によって理解が深まる

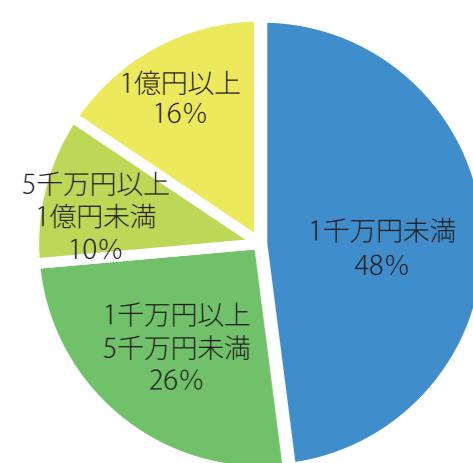
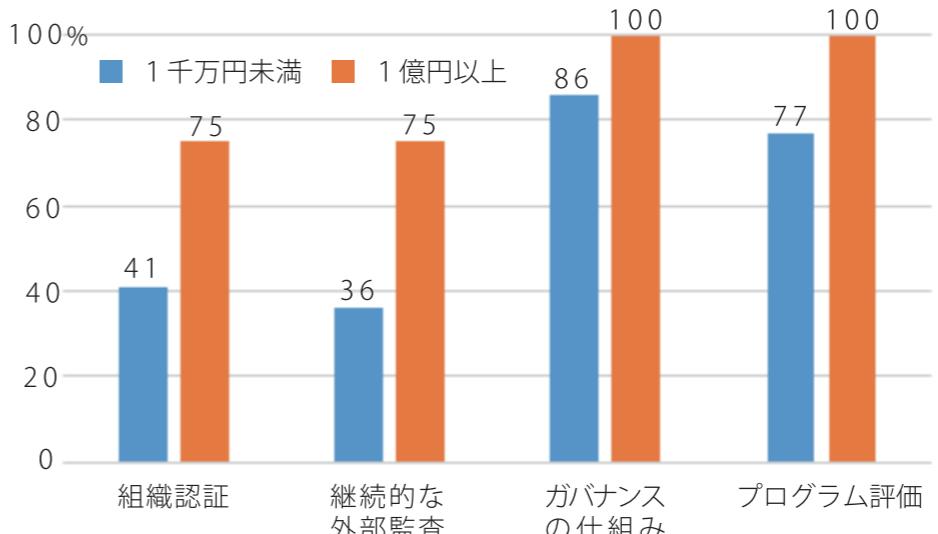
組織評価

- さほど必要性を感じていない団体が多い（特に小規模な団体）
- 軸は組織のミッション／ビジョン

事業評価

- NGO に多いプロセス型の社会開発では
 - (a) 数値で表せることには限界がある
 - (b) 事前に予想できない成果があっても評価されない

② 団体規模による違い



但し、NGO の約半数は小規模な団体であり、小規模団体に対する評価が、NGO セクター全体の評価につながることが考えられます。